

500型受信機正面

本機は、GT管とST管を組合せた卓上型の5球スーパー受信機で、キャビネットは厚さ9mm木製ニス塗仕上げが施され、大きさは奥行255mm、幅430mm、高さ210mmで、前面下辺がネット張りとなっている。

写真で見ると、減速比11対1の半時計式のダイヤル文字板があり、電源スイッチを入れると、これが中央にあるパイロットランプによつて間接照明され、プラスチックの文字板に彫刻された数字が、あざやかに浮か出し、派手な反面、落ち着いた感じのする意匠である。

シャーシは厚さ1mmの鉄板にカドミウム鍍金をほどこしたものを、コの字型に折り曲げて作った堅牢なもので、その他の部分品も良質の材料を使用して堅実にできており、よくまとまっている。配線はビニール被覆線を用いて、色別配線を採用している。しかし、配線工作は雑で、部品相互が接触する危険性が多い。

回路について、気の付いた点を上げてみると、アンテナ同調コイルをループにして(大きさ138×141mm 0.35mm

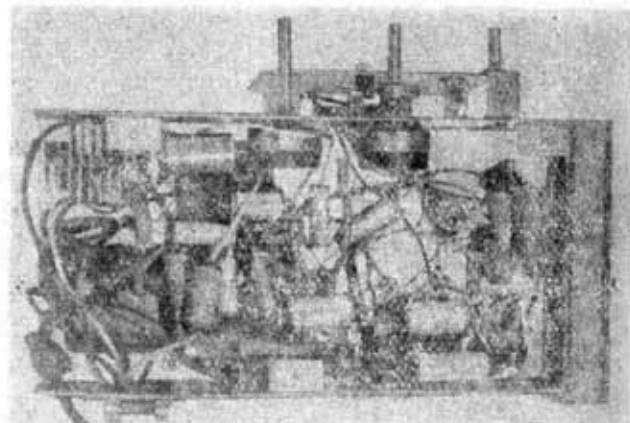
ビクター

R-500卓上型

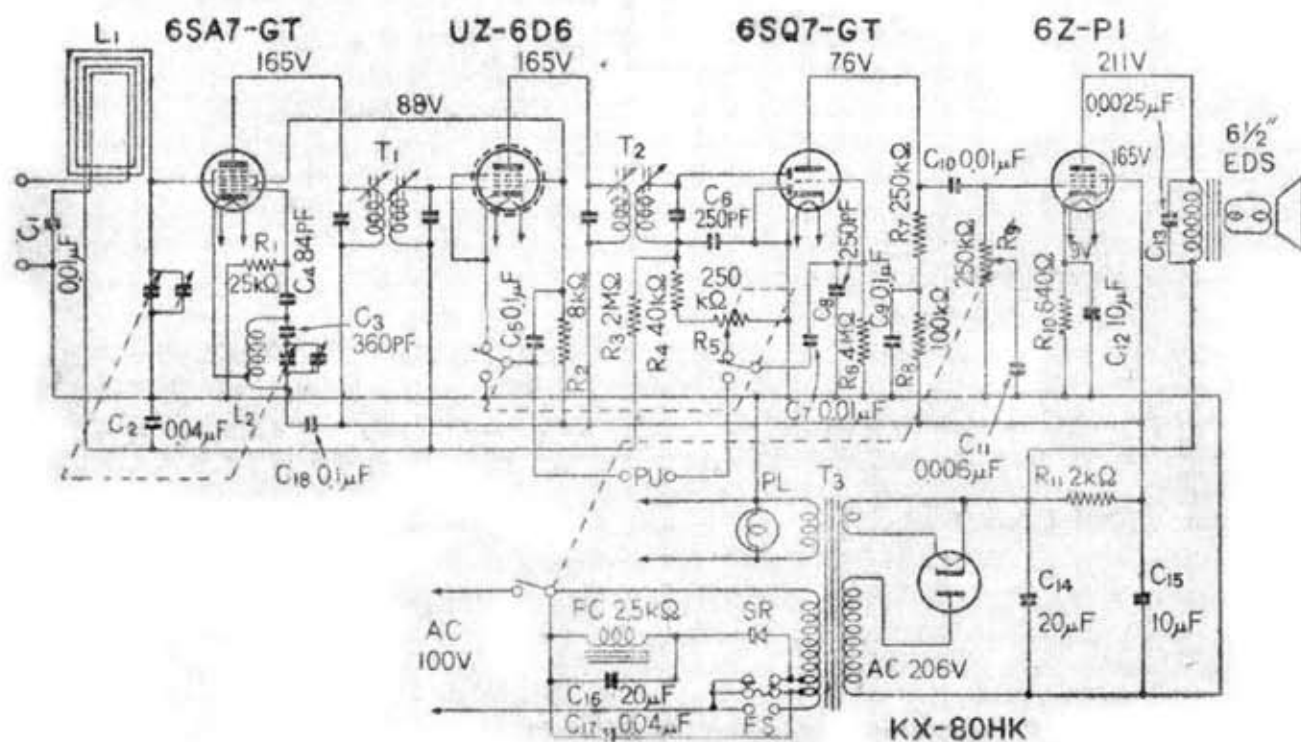
5球スーパー

DSC・E線使用、一次側3回二次側23回巻いてあるので、電界の強い地域ではアンテナなしでも十分動作するようになっている。

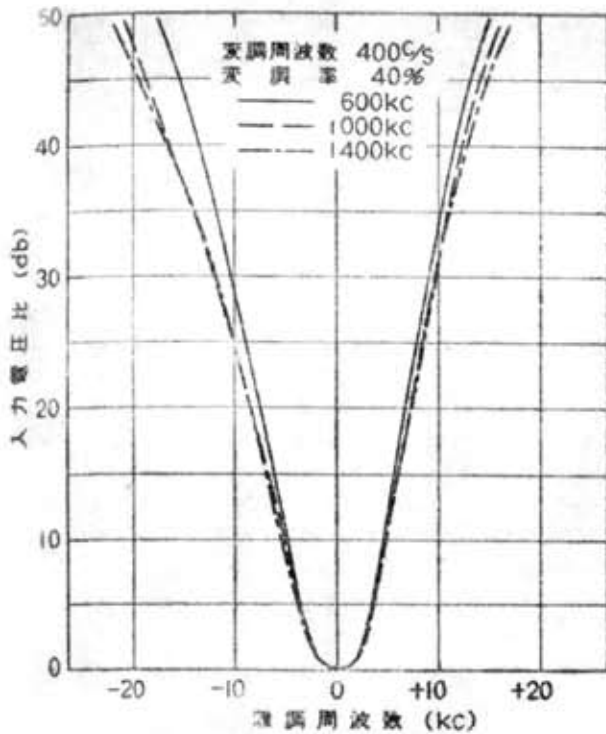
また、材料の節約をねらつたものか、トラッキング・レス・バリコンではないが、発振部のみ羽根の枚数を減じたバリコンが使用されている。



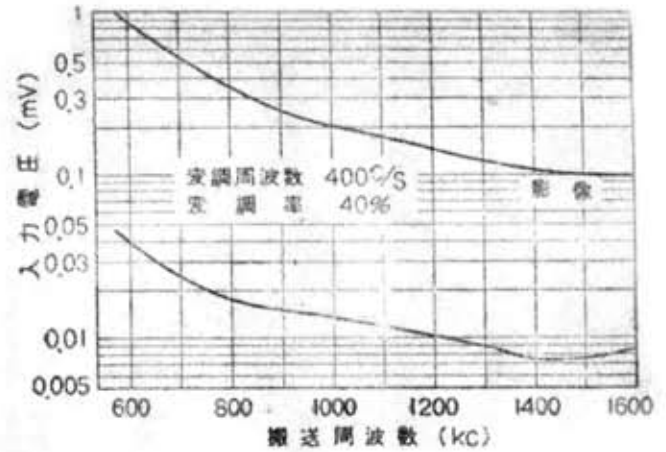
500型受信機シャーシ内部



500型受信機配線図



500 型 受信機選択度特性



500 型 受信機感度特性

て励磁する方式を採用している。

性能は、感度差が大きい以外格別悪い点もなく、電氣的忠実度は決して良いとはいえないが、スピーカーの音が良かったためか、比較的音質も良い。

本機は近く生産を中止され、同社の5球スーパーとしては、R-501型のみが生産される由である。本機とR-501型の相違は、後者が6 $\frac{1}{2}$ 時のパーマネント型ダイナミック・スピーカーを用いているので、電源一次側の励磁回路が省略されているだけで、性能などは同等と思われる。

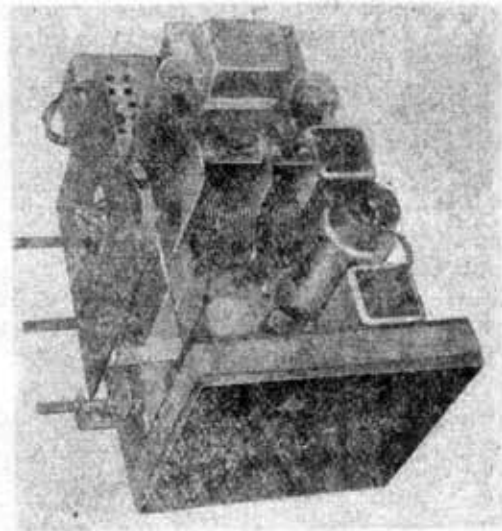
本機のピツクアップの切換には、音量調節用可變抵抗と連動になった、二接点二回路のスイッチを使用して、ピツクアップに切換えると同時に、中間周波増幅管のカソードをアースから浮し、放送の混入を避けるようになっている。

なお、この中間周波増幅管のカソードは通常直接アースされており、バイアスは AVC 電圧のみに頼っている。

6SQ7-GT のデカップリング回路の定数が、他社のセットと多少異なり、比較的抵抗が大きくコンデンサーが小さいけれども、測定してみた結果では、普通の回路より高音域の増幅度が僅かに落ちるだけで、使用上は大差がないようである。

音質調整は、6Z-P1 のグリッド側で行っているが、回路が簡単な割に、スムーズな調整ができる。

スピーカーには、6 $\frac{1}{2}$ 時の励磁型のダイナミックスピーカーを使用しており、この励磁方法として、電源變圧器の一次巻線からの 85V タップを出し、セレン整流器を用い



500 型 受信機シャーシー上部

音響用強力接着剤

No. 200

セメダイン

高周波
絶縁塗料

No. 240

ラジオの組立、スピーカーとコイルの製作修理に

体積固有抵抗は $6 \times 10^{14} \Omega \text{cm}$ 以上の電氣的高性能を有して居ります。

有名ラジオ部品店にあります50円